平成 29 年度種子島地区文化財保護審議委員研修会　事例発表　　2018. 2. 2

幻の茶入『種子茄子』について

西之表市文化財保護審議委員　中園　愛

1　『種子島家譜』の一文より

「寛永六年（1629）己巳、家老平山内膳友嘉を以て茶入（茄子と号す）を家久公江府に献ず」←種子島家 17 代当主・忠時の時代　　（『種子島家譜』巻五）

↓

この茶入は能野焼では？という疑問から探索スタート！

↓

調べてみたところ、『種子茄子』と称される、種子島家から島津家に献上された茶入が存在したことが判明。ただし、漢作唐物ということで能野焼ではなく、残念。。。

【そもそも茶入とは？】抹茶を入れる器の総称であるが、一般的には濃茶用の抹茶を入れる陶製の茶器の総名。通常は象牙の蓋と、金襴(きんらん)、緞子(どんす)、間道(かんどう)などの古裂(こぎれ)でできた仕服(しふく)といわれる袋が添えられ、塗り物等の容器でつくった挽家に納められ、さらに箱に入れて保管するようになっている。大きさとしては、だいたい 4.5 ㎝から 12.3 ㎝ほどの高さに、5 ㎝から 7 ㎝ほどの胴径をもつのが普通である。形の種類として、肩衝、文琳、茄子、大海、丸壺などがある。産地によって唐物（中国産）、和物（日本産）、島物（東南アジア産）に分けられるが、とりわけ唐物がもっとも珍重されてきた。

2　高橋義雄（1921）『大正名器鑑』で発見した『種子茄子』

雑　記

種子茄子御茶入　　一個

右種子島彈正祖父種子島左近家に被持傳候處、中納言樣御代被召上藤重藤巖と申者へ御見せ被成候處、天下之名物つくもと申候なすびの茶人に少も不相替天下に三ツ候と、昔より申習候内、二つは太閤樣に御座候て、大阪にて秀頼果候時、焼候ものと少も不相違此方の茶入は一段見事に候、其時藤巖賣申候共、五百枚にて賣可申候と申候由、家久公御譜中、島津下野久元、伊勢兵部貞昌書狀相見得申候、右御茶入の御禮彼此に、種子島へ有之候御藏入四千石餘、左近に被致拜領候由、是又家久公御譜に相見得申候。　　（島津公爵家文書）

○太閤秀吉が所有していた天下の名物「つくも」(注1) にも引けを取らない逸品である。

○『種子茄子』の代わりに、種子島家へ公領四千石を拝領する。

（1633 年）種子島に在る所の公領四千石を返し賜ふ。西村越前時昌を使として江府に到り之を謝し奉らしむ。仍って九月廿七日、下野守久元、伊勢貞昌、書を贈る。下に記す。（慶長末年（1615 年）、検地の時、家老種子島六郎右エ門、野間虎兵エ、平山休兵エ、心盧を失するを以て、四千石を増して公領と為す。地力に応ぜざるを以て数々（なびたび）之を訴ふ。故に此に及ぶ。）

（『種子島家譜』巻五）

○『種子島家譜』では、「公領四千石を返していただいた」というだけで、『種子茄子』の代わりに」という記述は無い。

◎『茶道』(1937) の中での記述には「(前略) 名物「種子茄子」茶入は、文政八年(←誤り) 島津家久が知行四千石を以て種子ヶ島左近と交換したものであることは周知のことである。」とあるので、茶人の間では有名な話であるのかもしれない。

3 『種子茄子』の詳細 (『大正名器鑑』より)

高さ	二寸二分 (約 6.7 cm)	胴径	二寸三分 (約 7 cm)
口径	八分 (約 2.4 cm)	底径	九分 (約 2.7 cm) ～一寸 (約 3 cm)
甑高	一分五厘 (約 0.5 cm)	重量	十九匁五分 (約 73.1 g)

・挽家は黒塗で、島津斉宣筆による「茄子」の金字の書付あり。

(挽家:茶入を入れる木の器のこと)

口作丸く拈り返し淺く、胴に沈筋一線繞り、裾以下鍋氣色土を見せ、底糸切稍荒く、底近くに一篦繞る。底面にヒッツキ及び指頭形あり、其中央に小さき土ホツレあり、總體天目釉の如き淺黄味を含みたる黒飴色にて、胴紐上より釉ナダレ裾に至りて止まり、露先に蛇蝎色あり。又之れと相並びたる同一ナダレの露先にも、同色を現はせり。火中に入りたりと覺しくて、釉カセあり。又總體大破を漆にて補ひたるが爲め、原釉色を失ひたる所あれども、胴以下は總て原質を存して、蛇蝎色の景色顔る面白き處あり。内部口縁釉掛り、以下轆轤目立たず、僅に筋を成すのみ。 (大正名器鑑)

◎明治 10 年西南戦争の折に、火を受けたと言われている。

◎破損 (『大正名器鑑』では「大破」と表記) したものを漆で修復してある。

4 大名物『付藻茄子』と見比べよう

・『大正名器鑑』に「島津公爵家文書」からの引用として記載してあった「雑記」について、その原典を確認すると、『大正名器鑑』では省略されていたエピソードが!

(前略) 大阪にて秀頼御果候時燒候を、相國様より藤巌へ被成御預、當時手前に御座候由、則其茶入召寄、於中納言様御前種子嶋より之茶入と 被見合候得て、形比少も不相違候、勿論つくもは燒候つる故、わろく候てくすり之分少も不見得候、此方之お茶入は一段見事に候付、殊之外褒美被申候、(後略)

◎藤巌 (注2) が秀忠公より「つくも茄子」を賜り手元に持っていたので、秀忠公の御前で家久の持参した「種子茄子」と見比べてみたところ、形が良く似ていて、むしろ (大阪夏の陣で) 焼けてしまった「つくも茄子」よりも一段上であると評されている。

大名物 唐物茄子茶入
付藻茄子 (12～13 世紀)
【静嘉堂文庫美術館 HP より】

唐物茶入 種子茄子
【『大正名器鑑』より】

5　なぜ、島津家へ『種子茄子』を贈ったのか？

◎17代当主・忠時が生まれる前年、16代当主・久時は没している。

→幼くして種子島家の当主になった忠時を、当時の島津家当主家久は、特に目を掛けていたようである。

『種子島家譜』の記述より・・・

○島津家の家臣を種子島に遣わし、「鶴袈裟（忠時の幼名）が幼なるを以て、君臣の礼を乱り、私曲を懐き、事を怠る事勿れ」と命じている。

○忠時元服の際は、家久公自ら冠を被せ、「武蔵守忠時」と書して名付けている。

○将軍家光・前将軍秀忠に謁見する際に、忠時を同席させている（『種子茄子』を献上した翌年）。←この際に『種子茄子』を秀忠らに見せたと考えられる。「将軍（家光）白銀百枚を忠時に賜ふ。」

○家久の四女を、忠時に嫁がせている。嫁がせた後も、事あるごとに二人に贈り物をしている。

⬇

とにかく家久公は、忠時の事がお気に入りだった様子がひしひしと伝わってくる。

→これに対し、忠時も「家久公に鉄砲百挺（玉目五匁）を献ず」など、事あるごとに贈り物をしている。『種子茄子』もその一つ。

・・・想像力を豊かにするならば、父のなかった忠時は、家久公のことを父のように慕っていたのではないか。

→家久公と忠時との、良好な関係故の贈り物だったのでは。

6　現在『種子茄子』はどこへ？

◎『大正名器鑑』が発刊された時点では、公爵 島津忠重氏 蔵。

島津忠重氏：島津家30代当主。大正13年（1924）博物館「尚古集成館」を開館。

昭和2年（1927）昭和金融危機により十五銀行が破綻すると、筆頭株主であった島津家はその煽りで大損害を負った。その後、昭和3年と4年の2回に渡って、先祖伝来の家宝を東京美術倶楽部で入札にかけている。

↓

第1回（昭和3年）の入札目録の中に『唐物種子茄子茶入』を発見。

その結果が記された「公爵島津家蔵品落札高値表」によると、『種子茄子』の落札価格は「金千百八十九圓」。

⇒現在の価格に直すと、安く見積もって、およそ**９０万円**。

◎残念ながら高値表に落札先の記載はなく、追跡もここまで・・・。無念！！

戦争や震災などを乗り越えて、

今もどこかでひっそりと受け継がれていることを願います。

【注記】

（注１）：付藻（つくも）は、「九十九髪」「付喪」「作物」とも表される。足利義満からの伝来を誇るこの茶入は、戦国武将・松永久秀が信長に献上して大和一国を安堵されたエピソードを持つ。大坂夏の陣で罹災したが、大坂城址から徳川家康の命をうけた藤重藤元・藤巌父子により探し出され、漆で繕われ、精緻な漆繕いの褒美として、家康から藤元に下賜された。

（注２）：藤巌＝藤重藤巌。戦国時代末～江戸時代初期の奈良の塗り師。1615 年大阪城落城の際に、徳川家康の命により父・藤元と共に宝蔵跡から掘り出した茶器の修復を命じられる。修復の出来がよかったので、九十九髪茄子は藤元に、松本茄子は藤巌に下賜された。

【参考文献・サイト】

・『種子島家譜』巻五

・高橋義雄（1921）『大正名器鑑』第１編　大正名器鑑編纂所

・『鹿児島県史料　旧記雑録追録』３　（1973）鹿児島県維新史料編さん所

・『公爵島津家蔵品入札目録』（1928）東京美術倶楽部

・『公爵島津家蔵品落札高値表』（1928）東京美術倶楽部

・林匡（2015）「薩摩藩家老の系譜」『黎明館調査研究報告』第 27 集
P1 - 43　県歴史資料センター黎明館

・静嘉堂文庫美術館ホームページ（名物「つくも」について）

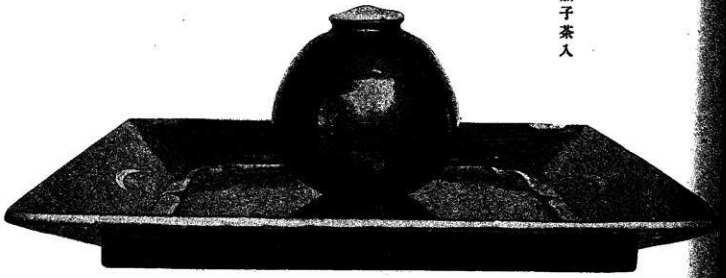
・前田幾千代（1937）「薩摩焼」『茶道　器物編（四）巻の十五』創元社

種子茄子（たねなす）

名物。**瀬作唐物**。**茄子**。種子島左近家が所持したところからこの名がある。高二寸二分（6.7cm）、胴径二寸三分（7.0cm）、口径八分（2.4cm）、底径九分（2.7cm）～一寸（3.0cm）、甑高一分五厘（0.5cm）、重量十九匁五分（73.1g）。口作は丸く、捻返しが浅く、胴に沈筋一線が廻り、裾以下は鉄気色の土見、底近くに一節廻り、底はやや荒い糸切で、底面にヒッツキ、指跡形がある。総体に天目釉のような浅黄色を含んだ黒飴色で、胴紐上より裾まで釉なだれがあり、雫先に蛇蝎色が現れている。西南戦争で火に遭ったといわれ、釉カセがある。伝来は、種子島左近家～島津家。**什覆**は、御納戸地雲龍大模様、紺地唐草緞子。蓋一枚。袋箱、二つ　桐白木。**挽家**、黒塗、書付島津斉宣筆。内箱、桐白木。外箱、黒塗。添盆、青貝盆　金井盆。添盆書付、二通。添書付、一通。

唐物種子茄子茶入

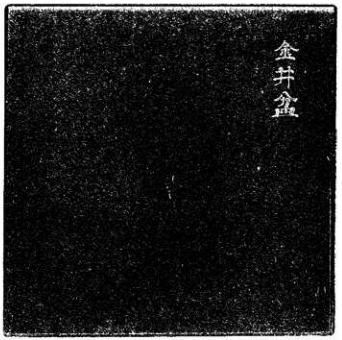
一二七　唐物種子茄子茶入



袋　緞子　濱東　金井金蔵
しきや純子　箱書　信州

望龍純子　挽家　秀真会

茄子


金幷盆

公爵島津家藏品落札高値表

昭和三年五月二十八日

東京市芝區愛宕下町　於　東京美術倶樂部

番號	品名	高値
一	李廸　瓜虫	金三萬八千九百圓
二	舜擧　笹海老	金千五百圓
四	檀芝瑞　竹石	金七百八十圓
五	李安忠　鶉	金七百三十九圓
六	舜擧　鷄頭	金五百三十九圓
七	蛇足　伯牙	金二千三百圓
九	相阿彌　雨山水	金六百九十圓
一〇	宗丹　眞山水	金一萬六千九百八十九圓
一一	周文　山水　二幅對	金二千九十八圓
一二	宗丹　布袋	金三百十九圓
一三	相阿彌　漁舟山水	金二千九百八十圓
一五	如雪　瀧山水	金千二百六十圓
一六	宗淵　眞山水	金八千九百圓
一七	啓書記　龐居士　靈昭女	金四百五十八圓
一八	雪舟　眞山水	金一萬六千九百八十圓
一九	雪舟　壽老	金千三十八圓
二〇	雪舟　中布袋　三幅對	金一萬二千五百圓
二一	雪舟　一本菊	金七百二十圓
二二	雪舟　周茂叔愛蓮	金三百二十三圓
二三	雪舟　中布袋　三幅對	金二千七百六十圓
二四	雪舟　梅林猛虎	金六百八十九圓
二五	雪舟　蓮鳩	金九百三十圓
二六	雪舟　山水　二幅對	金二千八十圓
二七	秋月　中壽老　三幅對	金二千三百圓
二八	秋月　花鳥	金二千九百十圓
二九	雪村　竹	金二千八百八十圓
三〇	雪村　枯木鳥	金二百十圓
三一	元信　大瀧	金千六百九十八圓
三二	元信　眞山水	金六百八十九圓
三三	元信　渡唐天神	金千百圓
三四	元信　中柳鵯　三幅對	金二千五百八十圓
三五	元信　桃鶴	金二百五十圓
三六	元信　猿廻	金六百五十圓
三七	松榮　梅鳥	金二百十圓
三八	元信　郭子儀	金千八百五十圓
三九	元信　菊枯木鵯鳩　二幅對	金四千三百八十圓
四〇	元信　梅雀	金五百八十九圓
四一	松榮　眞山水	金三千百二十八圓
四二	元信　松鷹	金千五百九十圓
四三	永徳　中岸浪　三幅對	金二千七百五十圓
四四	松榮　柳鳥	金二千百五十圓
四五	永徳　中列子　三幅對	金千五百二十九圓
四七	興以　春冬山水　二幅對	金七百八圓
四八	行長　双鷄	金六百十九圓
四九	元信　唐子遊	金四百六十圓
五〇	探幽　双猿　二幅對	金八百九十圓
五一	常信　中福祿壽　三幅對	金八百九十圓
五二	探幽　王昭君	金三千五十八圓
五三	常信　牡丹芙蓉菊鶉　二幅對	金五百三十圓
五四	常信　中壽老　三幅對	金二千五百十五圓
五五	探元　白鷹	金五百十八圓
五六	探元　夏山水	金千八百五十圓
五九	探元　竹石	金六百十三圓
六〇	探元　雪山水	金千百三十九圓
六三	養川院　福祿壽	金三百八十九圓
六五	伊川院　中定家　三幅對	金四千五百九十三圓
六六	一蝶　歌　二幅對	金四百五十圓
六七	勝川院　老松	金三百五十八圓

番號	品名	高値
一〇七	利休　茶傳卷	金六千百十圓
一〇八	曾我物語　三卷	金九百三十九圓
一〇九	爲世　和漢朗詠集　二卷	金八百九十三圓
一一〇	後水尾院　金泥普門品卷	金二百三十九圓
一一一	大江山繪卷　三卷	金六百五十五圓
一一二	石州　記錄卷	金千二百三十九圓
一一三	東海道五十三次繪卷　七卷	金千四百二十三圓
一一四	探幽、尚信、安信　卷　三卷	金千五十圓
一一六	探元　百人一首	金五百六十九圓
一一七	探幽　金地西王母東方朔六枚折屏風　一双	金八千八百八十圓
一一八	山樂　柳橋六枚折屏風　一双	金六千三百三十圓
一一九	應文　藤花游鯉二枚折　半双	金六百九十八圓
一二〇	光起　金地大内繪六枚折小屏風　一双	金三千五百九十一圓
一二一	探信　金地仙人盤松二枚折　一双	金五百三十九圓
一二二	晴川院　金地源氏繪八枚折屏風　一双	金八千七百八十圓
一二三	應擧　金地松鶴竹鷄六枚折屏風　一双	金四萬六千八百圓
一二四	大名物　松尾肩衝茶入	金十二萬九千圓
一二五	大名物　朱衣肩衝茶入	金二萬七千三百圓
一二六	漢實珠茶入	金一萬五千九百圓
一二七	唐物種子茄子茶入	金千百八十九圓
一二八	名物　柳藤四郎茶入	金七萬六百圓
一二九	名物　高取火海茶入	金一萬圓
一三〇	薩摩文琳茶入	金七千八百五十圓
一三一	名物　若狹盆	金一萬二千九百圓
一三二	飛島川手茶入	金三千百九十圓
一三三	瀬戸肩衝茶入	金千三百九十八圓
一三五	瀬戸海鼠手茶入	金二百三十九圓
一三六	瀬戸茶入	金二千三百九十八圓
一三八	盛阿彌棗	金八百八十九圓
一三九	建盞天目	金三千三百三十九圓
一四〇	井戸茶碗	金千六百九十圓
一四一	黄天目茶碗	金千二百九十八圓
一四二	玳皮盞天目	金三千六百八十圓
一四三	柿蔕茶碗	金六百九十三圓
一四四	井戸脇茶碗	金二百八十九圓
一四六	長次郎黒茶碗	金四百三十圓
一四七	長次郎黒筒茶碗	金二千二百三十圓
一四八	志野茶碗	金三萬六千三百九十圓
一四九	黄瀬戸茶碗	金二百九圓
一五〇	長次郎黒茶碗	金五百三十八圓
一五一	薩摩四方茶碗	金二千八百九十圓
一五二	薩摩秋草茶碗　薩摩筋茶碗	金千六百九十一圓
一五三	宗哲高臺寺棗　外ニ十點	金千百十一圓
一五四	薩摩肩衝茶入　外ニ二點	金六百五十九圓
一五五	保全金襴手筒茶碗　道八黒七寶筒茶碗	金二千百九十一圓
一五六	古銅桃底花入	金八千三百九十八圓
一五七	利休竹花入	金四千三百圓
一五八	宋胡錄柿香合	金四百九十圓
一五九	堆朱實珠香合	金六千百二十三圓
一六〇	利休共筒茶杓	金三百九十三圓
一六一	石州共筒茶杓	金二萬三百圓
一六二	隨流共筒茶杓	金六百六十六圓
一六四	仁清牡丹唐草香爐	金二千五百八十圓
一六六	石州共筒茶杓	金五百八十九圓
一六七	南蠻繩簾水指	金五千百九十八圓
一六八	[illegible]水指	金千八百九十八圓

番號	品名	高値
二〇五	切子長角鉢	
二〇六	倶利印篭筒	
二〇八	梶川作五十三次蒔繪揃…	
二〇九	梨子地澤瀉蒔繪手箱	
二一〇	象牙花蝶蒔繪紙臺	
二一一	黒地山水蒔繪紙臺	
二一三	松鶴蒔繪硯箱	
二一五	黒地羽紅葉蒔繪納戸硯…	
二一六	青貝入人物蒔繪小簞笥	
二一七	梨子地松竹梅蒔繪提重	
二一八	紫檀組机	
二一九	梨子地御紋唐草蒔繪文…	
二二〇	赤地雲鶴竹蒔繪小簞笥	
二二二	黒地梅蒔繪小簞笥	
二二三	金梅茶壺	
二二四	青磁水屋瓶	
二二五	紫檀高臺寺蒔繪爐椽	
二二六	銀四君子彫花瓶　一對	
二二七	仙巖燒薄端　二個	
二二八	仙巖燒古銅式瓶掛	
二二九	薩摩草花繪井筒形鉢	
二三〇	染付茶壺	
二三一	伊萬里手爐	
二三二	仙巖燒秋草繪火鉢　外…	
二三三	古銅雲彫釣燈籠	
二三五	七寶對花入	
二三六	銀鷄置物	
二三七	銅耳付花入　外ニ四…	
二三八	白銅手爐　一對	
二三九	仙巖燒花丸植木鉢	
二四〇	金製金剛盤　外ニ十…	
二四一	元祿大判　一枚	
二四二	享保大判　六枚	
二四三	眞文小判　外ニ七…	
二四四	新二分金　外數々	
二四五	金更紗胴亂　外ニ十…	
二四六	濱野直經作金地金物入宮…	
二四七	原岡安作七寶鐶　赤銅雲龍透彫　象牙芝山入鷄彫　印籠　〃	
二四八	梶川作山水蒔繪印籠　外…	
二四九	茶地唐花金更紗　白地大唐草金更紗　三百八十…　百二十…	
二五〇	白地唐花小唐金更紗…	
二五一	白地桐模樣秋草模樣　片輪車模樣花丸模樣　衣裳裂	
二五二	實盡織取衣裳裂　御所車模樣衣裳裂　外數々	
二五三	龜甲模樣裂　外ニ八	
二五四	菊水模樣衣裳裂　外數々	
二五五	大内桐模樣金襴裂　外ニ…	
二五六	櫻御所車模樣衣裳裂　外…	
二五七	赤地花つなぎ裂　外ニ十	
二五八	更紗裂　數々	
二五九	古渡唐棧　なめし革裂　外數々	
二六一	梨子地葵紋鞘形蒔繪　鞘　身　備前國長船眞利	
二六二	梨子地十ノ字紋蒔繪　鞘　身　備前國長光	